

# 草の根通信

Vol.74 (2013年3月15日発行)



しまね大会のオープニング・レセプションが開催される島根ワイナリー

## P12 事務局だより

全国の「ジョン万次郎」関連団体集まる!



## P12 協賛企業一覧

平成23年度寄附協賛企業一覧

次回のサミット大会は  
島根県で2013/7/2-7/8に開催!



Shimane Grassroots Summit 2013



P10

サミット後の交流を紹介!

ブリタニー・パーティン(松江市)  
行天茂夫(明石市)



P08

ジョン・ハウランド号の『航海日誌』世に出る「後編」

寄稿 川澄哲夫



P06

神話とおもてなしの国、イレーンの島根訪問記

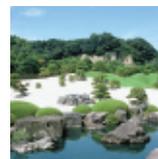
イレーン・ブロウニング(テキサス州ダラス市)



P04

大会実行委員長 特別インタビュー

しまね大会実行委員長 有馬毅一郎



P03

準備状況〜実行委員会開催報告〜

しまね大会、着々と準備進行中です!

特集

皆様をお迎えする準備を進めています!  
第23回しまね大会



いつも新しい空を目指して。

**ANA**

A STAR ALLIANCE MEMBER 

国内線のお問合せ ☎ 0570-029-222 (全国一律料金) 国際線のお問合せ ☎ 0570-029-333 (全国一律料金) [www.ana.co.jp](http://www.ana.co.jp)

# 特集 第23回しまね大会



## しまね大会、着々と準備進行中!

今年7月2日から島根県全域で開催される「第23回日米草の根交流サミットしまね大会」の実行委員会が、1月26日(土)に島根県職員会館にて開催されました。

冒頭、実行委員長の有馬毅一郎氏(しまね国際センター理事長/島根大学名誉教授)が、「名所旧跡などの観光資源だけを紹介するのではなく、ありのままの普通の島根を知ってもらいましょう。それが迎える側としても賢いおもてなしです。」と述べられたのが印象的でした。

実行委員会には、遠くは隠岐の島や益田からの委員を含め、27名が参加。サミットまでのタイム・スケジュールや、ホストファミリーの募集、また大会中のプログラムの内容を確認しました。島根全域で11の地域分科会が準備されていますが、どの分科会も工夫をこらした島根ならではのプログラムが展開されます。アメリカからの参加者の皆さんは、きっと感激されることでしょう。

### 実行委員の皆さん

- |      |               |                         |
|------|---------------|-------------------------|
| 顧問   | 千家 尊祐         | 出雲大社 宮司                 |
| 会長   | 溝口 善兵衛        | 島根県知事                   |
| 副会長  | 松浦 正敬         | 松江市長                    |
| 〃    | 長岡 秀人         | 出雲市長                    |
| 委員長  | 有馬 毅一郎        | (公財)しまね国際センター理事長        |
| 委員   | 雪吹 重之         | 松江(国際ネットワークしまね代表)       |
|      | 仲佐 伸夫         | 安来(安来国際交流協会事務局長)        |
|      | 藤原 弘道         | 奥出雲(奥出雲町国際交流協会会長)       |
|      | 坪内 邦至         | 雲南(雲南市国際文化交流協会会長)       |
|      | 柳楽 正雄         | 出雲(出雲国際交流協会会長)          |
|      | 加藤 昇          | 平田(平田国際交流センター理事)        |
|      | 高橋 泰子         | 大田(NPO緑と水の連絡会議理事長)      |
|      | 山崎 一成         | 江津(コロナ会会長)              |
|      | 樋山 陽介         | 浜田(浜田国際交流協会理事長)         |
|      | 澁谷 善明         | 益田                      |
|      | 野辺 一寛         | 隠岐                      |
|      | 宮廻 智美         | 松江市観光振興部国際観光課長          |
|      | 大國 雄輔         | 出雲市総合政策部政策企画課国際交流室長     |
|      | 内藤 高彰         | (公財)しまね国際センター常務理事       |
|      | 藤原 高博         | 島根大学国際交流課グループリーダー       |
|      | 佐草 利博         | 島根県立大学国際交流室長            |
|      | 意東 美恵子        | 松江商工会議所観光振興課課長補佐        |
|      | 黒谷 陽一郎        | 出雲商工会議所産業振興課長           |
|      | 中澤 信善         | 県商工労働部観光振興課国際交流グループリーダー |
| 事務局長 | 荒本 弘美         | 島根県環境生活部文化国際課 課長        |
| 事務局  | 島根県環境生活部文化国際課 |                         |





第23回日米草の根交流サミット2013  
しまね大会実行委員長

## 有馬毅一郎氏 特別インタビュー

しまね大会実行委員長で、島根大学名誉教授の有馬毅一郎氏のお話を伺いました。ご専門は教育学で、特に社会科の教員を育てる社会科教育学に力を注いでられました。

ご趣味は園芸で、種から育てたクリスマスローズを中心に、山に何千本と花を咲かせておられるそうです。

**Q** 有馬先生は、島根大学名誉教授でいらっしゃる一方で、公益財団法人である「しまね国際センター」の理事長もされています。国際交流とはどのような関わりをお持ちですか？

**A** 最初は、島根大学の学生が教育の一環で、外国で経験したり学んだりする機会を作ろうと、釜山教育大学と提携を結び、一番近い国、韓国に学生を送ったりしていました。

その釜山の大学と日本の大学の教員との間で、若い人達の国際理解促進の教育をどう考えたらよいかという共同研究もずっとやりました。その共同研究のために交流が生まれ、18回19回か、行ったり来たりしました。それが私の外国との交流の核になっています。それから、私は中国生まれです。戦前・戦中を中国で生活しました。このような背景から、これまではアジアよりの交流が多かったですね。

しまね国際センターも韓国、中国との関係に力を入れてきました。島根の子どもを韓国に送ったり、反対に韓国の子どもを島根に迎えたりしてきました。私も、理事長になってから、子ども達といっしょに韓国に行ったりしました。



**Q** 国際交流の意義とはどのようなものと思われますか？

**A** 日本でも、外国人との共生、多文化共生が身近に普通のことになってきている中で、国際的な感覚を持つていくことは必要です。誰か特別な人だけではなく、誰にとっても国際感覚というのは必要です。

国際交流という機会は、その感覚を磨くうえで大事で有効な手段です。そうした中で最近思うのは、国際交流は子どもの頃から経験することが望ましいということです。

これが結論です。その人の身体の中に、外国の人と交流することが普通のことという感覚を作っていくことが大事です。

国会議員や県議会議員のような特別な方々ばかりが交流するのではなく、子どもの頃から交流の経験をさせてやるのが賢いことと思います。



## 特集 第23回しまね大会 (特別インタビュー)

**Q** 島根県に来てみて、思っていたよりずっと国際交流が進んでいると感じました。

**A** 20年ちょっと前くらいから、島根を含め、日本全体での国際化の必要性というのが浸透してきました。市町村レベル、地域レベルで国際交流を進めようという機運が高まってきたのです。日本海側の島根は、目の前に韓国、中国がありますから、この2つの国のどこかと島根の市町村が交流を進めるということが進みました。もうやっていない市町村がないくらいです。韓国、中国が中心ですが、東南アジアとの交流もあります。アメリカと交流を進めた地域もいくつかありますが、東洋の国々との交流が中心です。また、島根には田舎が広がっていますから、すみずみまで浸透しているかというはまだ十分ではありません。今年開催される草の根サミットは、そういう意味で、地域のすみずみの方々がアメリカから来られた方々と交流する良い機会になればと思っています。

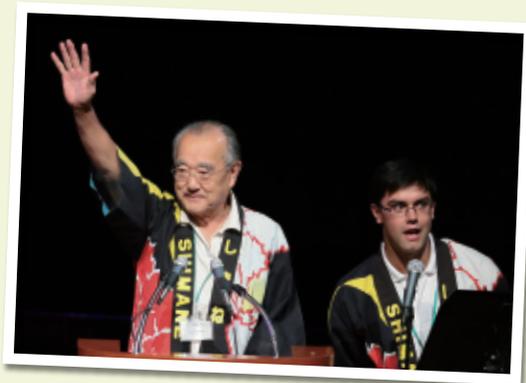
**Q** これまでに印象深かった国際交流の体験を教えてください。

**A** たくさんありますよ。一例ですが、昔、韓国の大学の先生6人と、私を含め日本の大学の教員6名が6年間、寝起きを共にして研究したことがありました。6年間いっしょにやってきて、これが最後の晩という宴の席で、一番若かった韓国の先生が「これまで日本の大学の先生とつきあいながら、いついじめられるか、いつだまされるか、と思ってきた。でも、最後までそういうことはなかった。そうじゃなかったということがよく分かった」と、心情を吐露しました。それだけ先入観が日本人に対してあったのですね。

国籍は違っても、民族は違っても、根っこには共通性があるのです。国レベルでは色々なせめぎ合いもありますが、一般の人の人間どうしの思いというのは共通しています。小中学生を韓国に連れていくと、子ども達は国籍を超えて最初から意気投合して、食事の後には、箸は箸、弁当ガラは弁当ガラと、お互い違う分別方法でもちゃんといっしょにゴミを分けているんです。こういうあたり前のつきあいが大事なのです。

**Q** 昨年のノース・テキサス大会にはご参加いただき、しまね大会のアピールもクロージング・セレモニーでしていただきました。テキサスの感想はいかがでしたか？

**A** 日本の夏とは違った暑さを経験しました(笑)。都市も松江や他の日本の都市とは異なりました。素敵な建造物が多く、建築設計がおしゃれなセンスでびっくりしました。サミットに関しては、米国社会の進んだボランティア精神に触れたと思っています。夜食事に出た時も、日本の方々が困らないように点々とボランティアの方々が立っていらした。きめ細かくお世話をしていただいた。在米の日本の方々、あるいは2世、3世の日系人たちも、日本からきた方へのサービスを自分のことのようにやっておられた。また、地域分科会のひとつで農場にも行きましたが、スケールが違いました。日本にはないものを感じました。お金を持っている人は社会貢献するのが当たり前。日本では、隠匿の美というか、あまり目立つように寄付や社会貢献をするということはないが、アメリカには、日本とちがった社会貢献のやり方があるなど。



**Q** しまね大会に向けての思いをお聞かせください。

**A** やって良かったというものにしたいと思いますね。島根にこれまでになかったくらいの方々のアメリカの方々が出てこられますが、これからは当面ないことかもしれません。ですから、多くの島根の方々に接していただき、一人でも多くの人に交流の機会を持ってほしいという意識を強く持っています。

見栄をはるのではなく、ありのままの日本、ありのままの島根、ありのままの生活をみてもらいたいです。ホームステイの時も、客間に座っていただくのではなく、いっしょに台所に立つとか、料理のために畑で野菜を採ってくるとか、そういう体験が大事だと思っています。

特集 第23回しまね大会 (イレーンの島根訪問記)

2012年のノース・テキサス大会で、現地の運営委員を務めたイレーン・ブロウニングさんが、さる12月に一足早く島根を訪れ、今年の大催の開催場所などを訪問しました。以下はイレーンさんからの寄稿です。



イレーン・ブロウニングー テキサス州ダラス市  
神話とおもてなしの国、イレーンの島根訪問記



村上ご夫妻といっしょに

私は日本に住んでいたことがあり、その間日本中を旅行したにも拘らず、神様の住まれる地、神話の里である出雲と松江を訪れた事は、ありませんでした。しかし、昨年12月、島根を訪れる機会を得、とうとう夢が現実になりました。  
また、昨年のノース・テキサス大会に島根県から参加された有馬毅一郎さん、山本美香さん、村上光言さん、川原久美子さんとも再会でき、とても光栄に思いました。一週間の超過密日程で、来るべき「しまね大会」の開催地を事前に見せて頂き、個人的にも訪ねたいと思っていた場所を訪問でき、たくさんのおいしい食事とお酒を楽しみました。



玉造温泉で浴衣に着替えて

第一日：島根県庁にお勤めの山本さんが出雲空港でお出迎え。その足で江津市にあるAQUAS(水族館)へ。島根の海沿いの峻厳な道は大変美しく、テキサスにはない景色でした。AQUASでは、アザラシやシロイルカが素晴らしい芸を見せていました。



江のおでん屋-徳平食堂にて皆さんと

第二日：知識豊富な村上さんのご案内で、島根大会の開会式が開かれる出雲大社へ。古代からの神秘に満ちた雰囲気でした。昼食は、開催日のレセプションが開かれる「島根ワイナリー」で、ワインの試飲とパーベキューの昼食。午後は村上さんのお宅(寺院)でお茶を頂きました。その晩、玉造温泉では雪が。「露天風呂に行くのが待ちきれない!」と、一泊だけですが、三回も温泉に入りました。

第三日：この日は松江市廻り。松江城を訪れ、ラフカディオ・ハーンが愛してやまない周辺の城下町には、彼の精神が漂っているように感じました。堀川の遊覧船の後は、島根県物産観光館でお土産物探し。

第四日：雪で始まり、火で終わりました。雪の大山から、足立美術館、それからサミット最終日の閉会式が行われる松江イングリッシュガーデン。一日の終わりに、宍道湖に落ちる火の玉のような日没を見ました。



長岡さんからの茶碗

第五日：出雲焼の長岡空郷さんの陶芸工房を訪問。江戸時代の古い茶碗でお茶をいただきました。お酒好きの私には「李白」酒造見学がこの日の朝のハイライト。若い田中裕一郎社長と出会い、お酒を買い、ダラスに向け出荷。ダラスに帰り、私はまさにこの蔵のお酒が李白酒造の米国における輸入元の一つ、「レストラン・ケンイチ」におかれているのを見つけました。

今回の旅行中、案内をしてくださった方々は、私が日本ではありふれた、どこでも見られるような場面の写真を撮っているのかを不思議に思ったようです。海辺の干し魚、食堂の天狗のお面、芸術的なマンホールの蓋などの写真です。日本人にとっては何も気を引くことのないようなものかもしれませんが、米国からの訪問者にとっては尽きることなく魅力的で、伝統的な日本の文化の一部がまだ島根に保存されていると映る事でしょう。

私は、島根のどなたもが示されたおもてなしの心と、今年開催される大会に対する情熱に心を温められました。島根で、古くからの日本の神話の神々様と会っただけではなく、優しく寛大な“今”の人々の祝福に遭遇しました。島根の皆さん、有難う!

(翻訳：朝倉正昭)



ダラスのKenichilレストランで



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、  
様々なビジネスを創造してきました。  
それでも、まだまだ成長過程。  
人のため、社会のために、  
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。  
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、  
ひとつの思いから。

[www.mitsubishicorp.com](http://www.mitsubishicorp.com)

 三菱商事

# ジョン・ハウランド号の『航海日誌』世に出る [後編]

川澄哲夫

(CIE評議員、文学博士・元慶応義塾大学教授、ニューベッドフォード捕鯨博物館・学術顧問)



1841年12月2日午前9時、ジョン・ハウランド号は錨を上げ、ハロナロを出帆した。もう1シーズン日本漁場を中心に、マッコウクジラを追いかける計画である。万次郎がジョンの名で乗り組んでいた。筆之丞ら4人はハワイに残った。

ジョン・ハウランド号は、進路を南にとり、赤道を越え、右舷にスターバック島を見ながら舵を北西に向けた。ジャービス島を過ぎたあたりで新年を迎え、1842年1月の下旬キンシメクロ(キングズミル・グループ)沖に達した。しばらくキンシメクロ近海でマッコウクジラを追いかけたあと、カロリン群島を抜け、ガム島へ辿り着いた。英米の捕鯨船はここを集結地とし、日本漁場でのマッコウクジラの季節に備えるのである。ガムでは、ジョン・ハウランド号の乗組員たちは交代で上陸し、陸上での休暇を楽しんだ。

4月21日、ジョン・ハウランド号はアブラ港を出帆、ボニズ(小笠原諸島)へ向けて舵をとる。5月9日、北緯26度6分東経139度30分のところで、ジョン・ハウランド号は激しい台風に見舞われた。



5月27日、ピール島(父島)のポート・ロイド(二見港)で、豚、ヤムイモ、玉葱、鴨などを仕入れた。その後、北に進路をとり6月5日の午前10時、右舷に孀婦岩、左舷に無人島が視界に入ってきた。今シーズンもジョン・ハウランド号は、孀婦岩と無人島を軸にして、東西南北にマッコウクジラを追いかけた。北は須美寿島あたりまで、日本本土からは離れて操業している。ときどき鳥島と孀婦岩が見えかくれする以外は空と海ばかり。



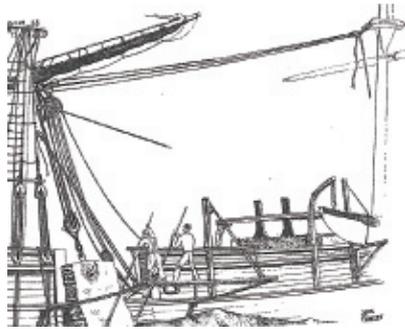
## 万次郎を救った捕鯨船の記録

ジョン・ハウランド号が、ニューベッドフォードの港を離れて2年と10カ月、食事はヤムイモ、塩漬けの肉、硬パン、玉葱、それと飲料水は樽に貯めた雨水である。来る日も来る日も鯨を追いかけ、解体し、搾油し、貯蔵するという単調であるばかりでなく、危険にあふれた作業が続く。彼らはこの忌わしい運命を呪った。だれもかれも発狂寸前である。反乱が正に起きようとしていた。



当時の捕鯨は危険にあふれていた。未知の海を不完全な海図を頼りに航海しなければならぬ。たえず嵐に襲われ、岩礁が船を取り巻いている。解体作業には、鯨に群がる鯀、危険な足場、油でつるつるになった甲板、打ち振る包丁。搾油作業の最中に炎がとび出し、いつ船火事が起こるかもしれない。しかも最大の危険は、ボートを下ろし、鯨を追いかけている時に始まる。ぞっとするような事故がつきまとう。やるかやられるかだ(A Dead Whale or A Stove Boat)。鯨の巨大な尾のひと打ちで、ボートは木端微塵になる。鯨の中には、敵意を抱いた鯨(ugly whale)さえいる。ボートに襲いかかり、草刈鎌のような巨大な顎でボートなどひと噛みに打ち砕いてしまう。8月23日、2等航海士エドのボートが、木端微塵に打ち砕かれた。9月12日には3等航海士ウォーレンのボートが、巨大な顎で噛み砕かれた。さらに9月16日には、船長のボートを、鯨が真下から襲いかかり打ち砕いてしまった。

秋になるとマッコウクジラは、日本漁場を離れて、東南の方向へ移動を始める。ジョン・ハウランド号も9月に入る頃から反転して舳先を東南に向け始めた。いよいよ日本から遠のいていくのである。



これより先、天保13年7月24日(西暦1842年8月29日)幕府は、「異国船無二念打払令」を改め「天保の薪水令」を発令した。むろん、万次郎もホイットフィールド船長も知る由もない。

ジョン・ハウランド号上は、だれもかれも狂気、不運につきまといまわっている(All Hands Mad And Bad Luck Attends)。捕鯨船上のホイットフィールド船長は、あの「万次郎物語」の彼とは別人であった。

10月10日、日付変更線を越えた。これではようやくみじめな生活から別れることができる。マストにはだれも立っていない。

10月29日、ジョン・ハウランド号は、アトオイ(現カウアイ)島の沖に錨を下ろした。ここで1シーズン契約のカナカ人3名を下ろした。万次郎は船長と共にアメリカへ渡る決意をしている。ジョン・ハウランド

号はここで薪水・食糧を補給したあと、南進して赤道を越え、モーレア(アイミオ)島へ入港した。11月29日のことである。

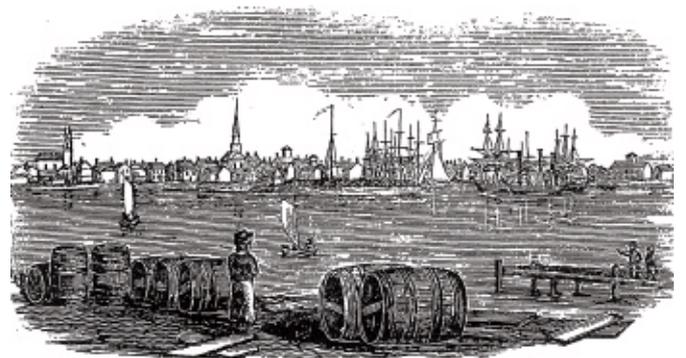
これより10日前の11月19日、メルヴィルは、ナンタケットの捕鯨船チャールズ・アンド・ヘンリー号で、アイミオを離れ、ハワイへ向かっていた。

ジョン・ハウランド号は帰港(homeway bound)を急ぐ。原乗組員は28名から16名に減っていた。

ジョン・ハウランド号は、アイミオ島を出帆したあと西南西へ進路をとる。翌1843年2月13日には無事にホーン岬を回り、こんどは北へ舳先を向けた。その頃、頭上にほうき星が現れた。1843年の大彗星(Great Comet)である。

バーミューダ海峡を過ぎ、どんどんニューベッドフォードへ近づいていった。5月4日、捕鯨船の心臓部である鯨油煮沸炉(try works)を海に投げ捨てた。

1843年5月8日、ジョン・ハウランド号は、バザーズ湾を遡っていた。後方にゲイ岬の明かりがまたたいていた。こうして3年6カ月と7日にわたる捕鯨の旅は終わった。収穫はマッコウ油の2,761バレルであった。ライマン・ホームズにとっては、長い不愉快な旅であった。



## サミット後の交流を紹介!

草の根サミット大会で生まれた友情は、その後も続いています。今号では、サミット後、さらに絆を深めている例をご紹介します。

### 自分の故郷を外国の人に紹介する楽しみを発見

ブリタニー・パーティン(松江市)

2006年、私は17歳で、短大で日本語を勉強していました。母は私の勉強を支えるために、その年のコロラド州で行われた日米草の根交流サミットのホストファミリーになろうと思ったのです。大家族だから小さい兄弟がお客さんの迷惑になると心配しましたが、清水直美さんは幼稚園の先生だったので、私達とぴったり合いました。3泊4日という短い間を通して、私は覚えてたの日本語で日本についての話をしただけでなく、自分の故郷を外国の人に紹介する楽しみを発見しました。



ブリタニー・パーティンさん

翌年、私は初めて来日する機会を得ました。当然、親は娘が外国に行く事を心配しましたが、父は何度も「信頼できる直美がいるので安心だ」と言い、そして母は自分から直美さんのお土産を選んでいました。旅の後半に愛知県田原市にホームステイし、そこで直美さんと会う予定だったのに、名古屋空港に着いたら、直美さんが内緒で空港まで迎えに来てくれていたのでびっくりしました!それは、私にとって初めての日本の思い出になりました。



侍姿の私

その時の訪問と、翌年の大阪府に留学した時の訪問の際にも、直美さんが私の興味に合わせて、田原の魅力を紹介してくれました。観光だけでなく、沢山の友達と一緒に日本文化と異文化を楽しむことが出来、色々良い思い出を作ることが出来ました。留学から帰国した後、大学が忙しくて、なかなか日本に戻る機会がありませんでした。そして、直美さんとの連絡がだんだん少なくなってしまいました。でも、途絶えることはありませんでした。今も、交流が続いています。

私は日本語の勉強を続け、異文化理解に対する興味が強くなっていきました。そして、2012年に、JETプログラムの国際交流員になり、島根県松江市に引っ越してきました。国際交流員として翻訳と通訳の仕事以外、日本語でアメリカの紹介と文化講座をするなどの役割があります。着任してまもなく、4年ぶりに日本にある故郷の一つ、田原にもう一度ホームステイする機会がありました。以前、直美さんがたまたま松江に観光していたので、会った時、私より松江について詳しくかったです!二人で色々な外国のお土産話を交わしたり、初めての盆踊りも体験したりしました。でも一番印象に残ったのは、直美さんから見た私の成長。次に会う時は、もっと上手な日本語を使って見せたいと思っています。



忍者姿の私

その時まで、松江の人達に自分の故郷を紹介するだけでなく、水の都松江を外国の友達に紹介し続けたいです。今年の草の根サミットは島根県で行われるので、沢山のアメリカ人が新しい日本の故郷を楽しめるよう願っています。そして、新しい縁が結ばれていくと喜びます。



直美さん(右端)と

## その後のサミット

## 交流が次世代にもつながって

行天茂夫(明石市)

私は去年、初めて草の根交流サミットに参加させて頂きました。英会話もままならぬ私でしたが、妻の「強い後押し」もあり、ノース・テキサス大会のみならず、オプション・プログラムでフェアヘイブンにまでも行ってきました。

ノース・テキサスでのホスト・ファミリーは、ヴァーノン・リュウさん一家。迎えに来てくれた彼はスーツ姿の優しい紳士で、会うまでの不安は一気になくなりました。家につくと、満面の笑顔で奥さんと黒いジジそっくりの猫も出迎えてくれました。

リビングにはピアノやギター等が・・・!そうです。音楽一家で、車中で聞いたジャズは、バンドを結成した息子のニックさんのサクソホン演奏でした。娘さんはソプラノが上手だそうです。



奈良での再会



奈良の歴史を学ぶ

色々な話の中でその息子のニックさんは現在、東京で勤務されていることが分かりました。日本の大学へ交換留学生としての経験もあり、その大学は東京にいる私の次男と偶然同じでした。

私が「日本でニックさんにお会いしたい」と申し出たところ、最終日の朝、スカイプで東京のニックさんと対面させてくれました。パパさん同様、凄く優しい感じで、フィアンセのローレンさんと住んでおられました。

そして、ホスト・ファミリーのヴァーノン夫妻も、日本へ10月に来られるとの事。是非日本で再会したいとお伝えし、テキサスを後にしました。

日本に帰るや否や、早速東京のニックさん達とメール交換を始めました。

そして10月、テキサスから来日されたホスト・ファミリーは、東京と京都でゆっくりされた後、私達夫婦と奈良で再会することとなりました。

当日、私達ははやる気持ちを抑え神戸を出て奈良駅で待っていると、ヴァーノン夫妻、ニックとローレンがやって来て、お互いハグしあい再会の喜びを味わいました。

奈良公園で何度も鹿にせんべいをやりながら頭を撫で、大仏殿では、大きさに感嘆しながらも、しっかりと歴史を学ぶなど、ゆっくりした時間を経て、奈良駅で来年の再会を約束しお別れしました。

すると、その二日後、東京に戻ったニックさんとローレンさんは、私の次男夫婦といっしょに夕食をされ、日本での留学時を懐かしく話し合ったそうです。そして、偶然にも次男の嫁はテキサスでホームステイした経験があり、一段と意気投合してその後も時ある毎に食事をし、楽しい交流を育んでいる様です。

さらに、12月には娘夫婦もニックさん達と東京で会い、初対面でしたがローレンさんとも意気投合して遅くまで会話が弾んだそうです。この春にニックさんとローレンさんはハワイで挙式予定ですが、その招待も頂き再会を約束してお別れしたそうです。

思えば、遠くアメリカにお友達が出来、しかも次の世代へつながるとは正直思ってもみませんでした。こんなに素晴らしいチャンスを受けた事に感謝しております。そして、フェアヘイブンのホスト・ファミリーとも今年のサミットで再会を予定しています。また、一緒に行かれた日本の方とも連絡を取り交流を続けていきたいと思っております。ありがとうございました。



子ども達と東京で

## 事務局だより

## 全国の「ジョン万次郎」関連団体集まる！

ジョン万次郎に関する団体は、CIEだけではありません。沖縄、高知、東京、またアメリカにもあります。こうした団体が一堂に会す機会が昨年10月末、「土佐ジョン万会」の主催で、万次郎の故郷、土佐清水市で開催されました。

「ジョン万サミット」とうたったこの会議は、土佐清水市が主催した「ジョン万祭り」に時を合わせたもので、フェアヘイブンからの3名を含め、各地から39名が集いました。

参加団体は、以下のとおりです。

- ・ 沖縄ジョン万次郎会  
(沖縄県豊見城市)
- ・ ウェルカムジョン万の会  
(高知県土佐清水市)
- ・ 土佐ジョン万会  
(高知県高知市)
- ・ 「ホイツフィールド・万次郎友好記念館」協力の会  
(東京都+フェアヘイブン)
- ・ ジョン万次郎・江東の会  
(東京都)
- ・ ジョン万次郎ホイツフィールド記念国際草の根交流センター  
(東京都)

沖縄から参加された12名の方々は、土佐清水まで6時間をかけて参加されました。この会議では、互いに顔を合わせながら活動を紹介しあい、親睦を深めることができました。また、翌日にはバスで万次郎の生家などを訪問。土佐市宇佐では、万次郎とともに救助された筆之丞、重助、五右衛門の墓参りもしました。その後、参加者の間では電子メールが交わされ、最新の活動のニュースなどが届いています。



「ジョン万サミット」の様子



翌日は、土佐市宇佐にある筆之丞、重助、五右衛門の墓参り

## 平成23年度協賛企業一覧

NTTコミュニケーションズ株式会社／キヤノン株式会社／全日本空輸株式会社／株式会社大庄／トヨタ自動車株式会社／三井住友海上火災保険株式会社／三菱商事株式会社／三菱食品株式会社／アイシン精機株式会社／愛知製鋼株式会社／曙ブレーキ工業株式会社／アサヒグループホールディングス株式会社／イオン株式会社／キッコーマン株式会社／麒麟ホールディングス株式会社／コカ・コーラセントラル ジャパン株式会社／株式会社ジェイテクト／中部電力株式会社／株式会社デンソー／東京海上日動火災保険株式会社／豊田合成株式会社／株式会社豊田自動織機／豊田通商株式会社／トヨタファイナンシャルサービス株式会社／トヨタ紡織株式会社／株式会社永谷園／株式会社ニフコ／日本郵船株式会社／日本ユニシス株式会社／パナソニック株式会社／日野自動車株式会社／ブラザー工業株式会社／株式会社ブリヂストン／明治安田生命保険相互会社／矢崎総業株式会社